

市井二郎 いちい じやう 哲學者。大正十一年六月十八日大阪生れ、平成元年六月二十八日没（九二一八）。昭和二十四年大阪大學理學部卒。思想の科學研究會に加入。二十六年イギリス留學。愛知教育大學助教授と經て、二十六年成蹊大學教授。

譯著書、レオポルト・ナンフェルト著『神々の愛ごし人（世紀の數學者エヴァリス・ガロアの生涯）』（譯、昭和二十五年六月二十日日本評論社）、タウンゼンド著『コヤマリカ哲學史』（譯、昭和二十六年二月二十日岩波書店）『岩波現代叢書』（）、『哲學的分析（社会・歴史・論理の中心の基礎的試論）』（昭和二十八年七月十五日岩波書店）、『歴史の進歩とはなにか』（昭和四十二年十月二十日岩波書店）『岩波新書』（）等。

